

防災広報セミナー2022

# 〈ふだん▶まさか〉に備える 地域との繋がり方を考える

～進化する災害に、地域一体となって立ち向かうため、いまできること～

## 実施報告書



公共広報コミュニケーション研究会  
Research Institute for Public Relations and Communications

## 実施概要

- セミナー名 : 防災広報セミナー2022〈ふだん▶まさか〉に備える 地域との繋がり方を考える  
～進化する災害に、地域一体となって立ち向かうため、いまできること～
- 実施日時 : 令和4年10月6日（木）15時～17時00分
- 開催手法 : オンライン開催（Zoom ウェビナー使用）
- 参加者 : 9自治体 ※参加費無料

## 開催目的

当研究会では、公共から市民への広報〈今の時代に即した情報の受発信〉に関する研究と事例共有を関東中心300自治体へオンライン・メディア（メールマガジン）を通じて行っているが、災害の多発と激甚化、さらにはコロナ禍という近年の状況により、防災・災害対応における情報発信の重要性が高まっていることを踏まえ、各自治体の担当者が情報共有を図ることを目的とし、オンラインセミナーを開催する。

## セミナーテーマ

公共広報コミュニケーション研究会（リパルコ）の基本姿勢「市民への、今の時代に即した情報受発信は、単にinformation transmission（情報伝達）であるのみならず、Communication（関係構築）であるべき」に基づくテーマ「**普段のコミュニケーション構築による緊急時への備え**」（平常時に市民とコミュニケーションを重ね、非常時に情報のライフラインを目指す）の実現に向けた、オンライン（ネット、SNS等）活用による広報の研究と啓蒙の一環として、矢守教授の「**生活防災**」の考えを中心に、近年、自然災害による被害を経験した自治体、防災に特長的な取り組みをしている自治体の事例共有により参加者の理解を深める。

## 実施概要

- セミナー名 : 防災広報セミナー2022〈ふだん▶まさか〉に備える 地域との繋がり方を考える  
～進化する災害に、地域一体となって立ち向かうため、いまできること～
- 実施日時 : 令和4年10月6日（木）15時～17時00分
- 開催手法 : オンライン開催（Zoom ウェビナー使用）
- 参加者 : 9自治体 ※参加費無料

公共から市民への広報〈今の時代に即した情報の受発信〉に関する研究を関東中心300自治体へオンライン・メディア（メールマガジン）を通じて行っている公共広報コミュニケーション研究会（リパルコ）の基本姿勢「市民への、今の時代に即した情報受発信は、単にinformatitransmission（情報伝達）であるのみならず、Communication（関係構築）であるべき」に基づくテーゼ「**普段のコミュニケーション構築による緊急時への備え**」（平常時に市民とコミュニケーションを重ね、非常時に情報のライフラインを目指す）の実現に向けた、オンライン（ネット、SNS等）活用による広報の研究と啓蒙の一環として、矢守教授の「**生活防災**」の考えを中心に、近年、自然災害による被害を経験した自治体、防災に特長的な取り組みをしている自治体の事例共有により参加者の理解を深める。

## 参加自治体

9自治体

東京都 江戸川区／栃木県 那須塩原市／栃木県 足利市／群馬県 前橋市／千葉県 柏市／埼玉県 さいたま市

埼玉県 上尾市／埼玉県北部地域振興センター／埼玉県 東松山市

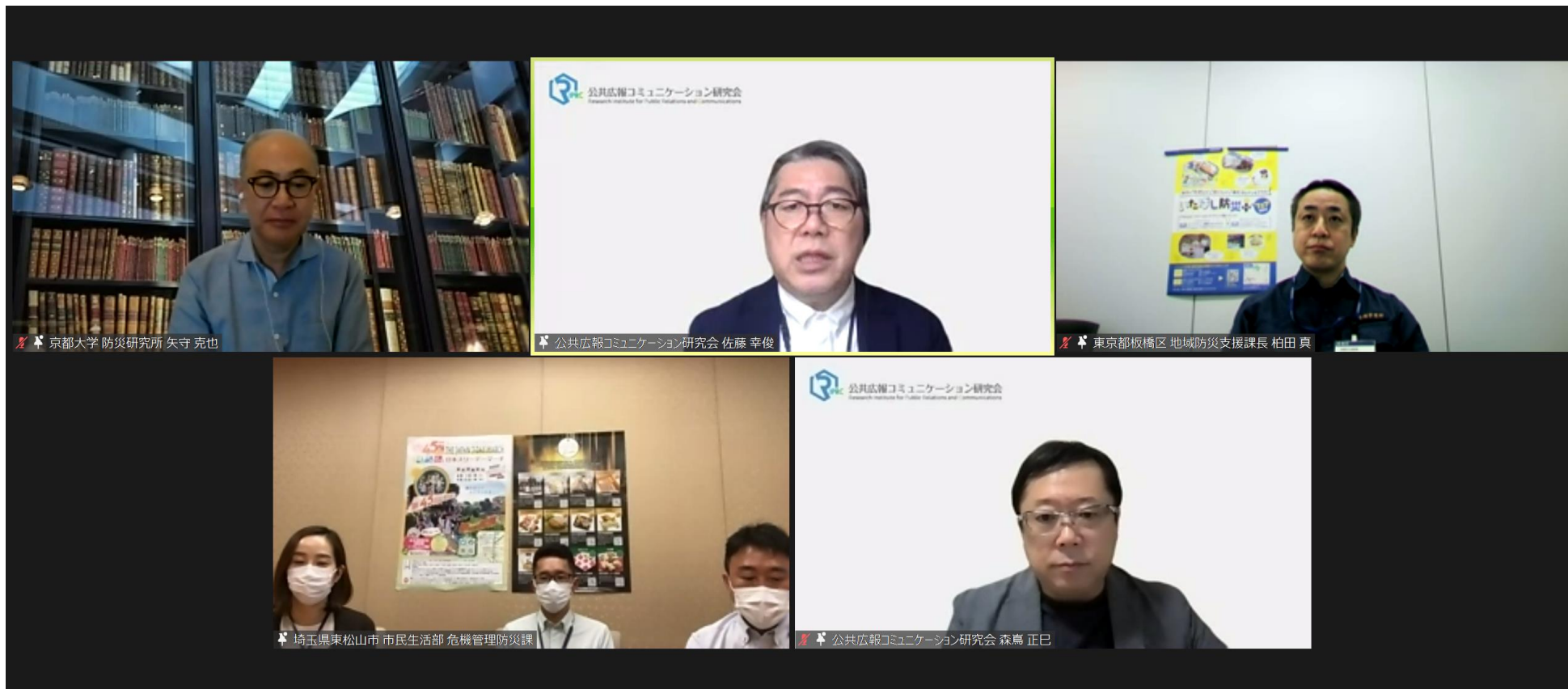
## 基調講演

- 講演者：京都大学防災研究所 巨大災害研究センター  
矢守 克也 教授
- 演 題：生活防災「ふだん」と「まさか」をつなぐ
  - ・お手本（1）岩手県野田村保育所
  - ・お手本（2）台湾台北市郊外
  - ・〈生活防災〉の5つの柱  
「ふだんの生活」  
「みんなで」（コミュニティで）  
「繰り返し」（毎日、毎週、毎月、毎年…）  
「一石二鳥」（三鳥…）  
「ご当地主義」
  - ・「土手の花見」＝〈生活防災〉の原点
  - ・（くらしや地域の問題に防災を組み込む）
  - ・お手本（3）加古川グリーンシティ防災会
  - ・お手本（4）「ふだん」見ること
  - ・武庫川の事例
  - ・ちょっと違った角度からのお手本（5）
  - ・最後だとわかっていたなら
  - ・明日をまもるナビ  
「チャレンジ！BOSAIアクション第2弾」



# 生活防災 「ふだん」と「まさか」 をつなぐ

矢守 克也  
京都大学防災研究所



■ 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 矢守 克也 教授

■ 板橋区 危機管理部 地域防災支援課 柏田 真 課長

■ 埼玉県東松山市 市民生活部 危機管理課 大久保 泰宏 副課長  
関根 芳 主査  
三橋 恭平 主任

■ 公共広報コミュニケーション研究会 事務局長 森嶋 正巳

[進行]

公共広報コミュニケーション研究会 主任研究員 佐藤 幸俊



パネリスト：板橋区 危機管理部 地域防災支援課 柏田 真 課長

### いたばし防災+プロジェクトについて

**目的**  
「いたばし防災+（プラス）プロジェクト」とは、少し堅苦しいイメージのある「防災」に、“楽しい”“おいしい”といった「なにか」をプラスして、これまで防災に興味のなかった人や防災とは一見無関係の企業や団体を巻き込んで実施する取組です。  
この取組により、防災に関心のある方、団体のすそ野を広げ、地域全体の防災力向上へつなげていくことを目的として、当プロジェクトを実施していきます。

「感染症予防への配慮」 「個人の防災知識取得をサポート」 「幅広い層に訴求するための発信方法の改善」

**区民** 防災について学びたい  
**地域** 防災について学びたい  
**企業** 自社の技術を活用したい  
社会貢献したい

行政、区民、企業、共同体など、多様な主体が「協働」できる「場」の創出

**行政機関** 組織間の連携が必要  
**教育機関** 専門的知見を活かしたい  
教育に防災を取り入れたい

**いたばし防災+プロジェクトの基本コンセプト**  
防災は“楽しい”や“おいしい”を必要としています。  
防災は“協力”や“発見”を必要としています。  
従来の防災に様々な「なにか」をプラスして、新たな防災事業を展開します。

防災+何か

▼詳しくはこちら！

■ 「いたばし防災+プロジェクト」について

- Q. こうした特長的な取り組みとなっているきっかけと、周囲の反応は？
- A. コロナ禍で訓練が出来ない状況を契機に、防災への関心があまり高くない層へのアプローチを図りたいと考えた。  
住民から「出てたね」と言われることもあり、コミュニケーションの良いきっかけになっている。庁内でも好評
- Q. 外部（区民、事業者）の巻き込み方がうまい。どういう風に？
- A. もしこういうところと、こういうことが出来たら面白いのではーと現場からの発案で動き始める

■ 全般的な点

- Q. 他分野・他の所属との連携については、正に「土手の花見」のような取り組みがあるとお聞きしました
- A. 国交省の「かわまちづくり計画」は堤防整備というハード面とそれによる「ふだんのにぎわい」というソフト面の融合。土木、環境・観光・スポーツ、多くの部署が関与

いたばし 防災+ プラス

板橋区 Commit our Future  
Toward SDGs  
Innovative City

板橋区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

(プラス)  
**いたばし防災+プロジェクト**

1



埼玉県東松山市 市民生活部 危機管理防災課

パネリスト：埼玉県東松山市 市民生活部 危機管理課

大久保 泰宏 副課長

関根 芳 主査

三橋 恭平 主任

■宮城県東松島市と姉妹都市－東日本大震災以来の親密な関係

Q. 現地における自治体と地域・住民とのコミュニケーションについて

A. (当時)宮城県北部地震(2003年)の経験があったので、住民は協力的だった(現在)復興が進むと、人の出入りも増えるため、コミュニティ維持が課題に。

時代背景や地域的な条件等から、自治体ごとに状況は異なるが、コミュニティ⇆コミュニケーションがポイントになるのではないかと。

■令和元年台風19号－河川結果による浸水被害

Q. 復興に向けた住民とのコミュニケーションにおいて、どんな工夫、成果、課題

A. 被災者への継続的なアプローチで“顔の見える”関係性が築けた。被災した地域では、残る人と出る人で傾向が分かれるため、やはり「コミュニティ」をどう強化するか、新しく作るかは、大きな課題

Higashimatsuyama City

## 東松山市の被害の状況

(令和2年10月30日時点)

■人的被害  
死者2名(うち関連死1名) 行方不明0名 負傷者2名  
被救助者76名

■家屋の被害 (令和2年10月30日時点 住家・非住家含む)

全壊	129戸	左記のうち
半壊・大規模半壊	402戸	床上浸水 592戸
一部損壊	239戸	床下浸水 124戸
		浸水なし 54戸

■避難者  
最大避難者数 3,239人 (令和元年10月12日午後10時30分)  
総合計避難者数 3,329人 (令和元年12月8日午後4時避難所閉鎖時点)

■避難所  
最大 26か所  
(唐子10/30閉鎖 丘陵11/8閉鎖 松山11/19閉鎖 野本コメン12/8閉鎖)

4

Higashimatsuyama City

## 防災広報セミナー 2022

埼玉県 東松山市

令和4年10月  
6日

1

## 公共広報コミュニケーション研究会



自治体の広報活動を支援する任意団体として（株）チーム・エムツーに2021年結成。主に自治体広報担当者への取材を通じて地域の具体的な広報事例紹介をメールマガジンを通じて行っています。現在は特に防災広報に重点を置き、首都圏300自治体を中心に情報提供しています。現在年に一度程度、防災広報セミナーを開催。今後SNS活用やDXなどを活用し、**防災DX**支援という形で自治体を支援していく予定です。

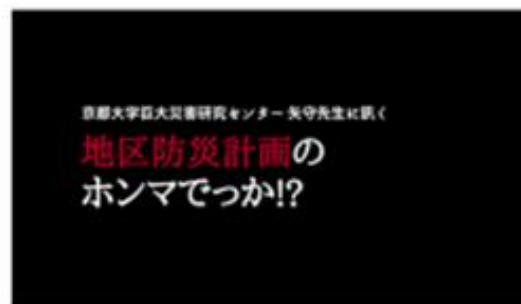


### 講演テーマ及び事例共有



### 自治体広報コミュニケーション研究会

矢守先生に訊く 地区防災計画の「ホンマでっか!?」 前編：「現場から聞こえてくる4つの誤解」



### 自治体広報コミュニケーション研究会とは？

公共から市民への広報（今の時代に即した情報伝達手段）に関する研究と事例共有を拠点を中心とする自治体向けオンライン・メディア（メールマガジン）を通じて行っている研究会です。

▼これまでの防災広報研究に関する情報はこちら

- ・2021年10月 「災害準備×コロナ禍の移行に迫られる防災広報を考える」 オンラインセミナー開催
- ・2020年11月 「くまの助五」の達人…まさかの防災編。
- ・2020年7月 「災害リスクと防災策」。